

C-73 マイクロモーションスタディを主とした被服構成の動作研究(第2報)
—オーバーコートの縫製作業の動線解析—

精華女短大 磯部 誠介
○藤田喜生子

1. 前報は熟練により能率を上げていた従来の作業に対し、メモーションにより時間測定をし方法改善を行なったが、今回は要素作業の時間研究、作業中に発生する手と目の動き、および動線を分析してむだな動作を排除し、よりよい動作の手順と調整をさだめる手段を実験考察したので報告する。

2. 動作分析にあたりメモーションカメラ、ストップウォッチによる時間測定は第1報と同様であるが今回はアナライザーによる測定を行ない動線および作業者の目の動きを観察した。作業は婦人用オーバーコートの裁断と切躰まで、作業対照被験者は熟練者と未熟者の両者において行なった。

3. 作業動作分析にあたり作業動作を中心とする解析を行なうことによって、もっとも経済的な方法をみいださなければならない。本実験においてもメモーションスタディは有力で、諸作業の欠陥が誇張される、さらにアナライザーによる解析の結果手と目の動き動線等の実験成果が得られたと考えられる。本実験において2つの作業を観察し、動線を追跡することによって移動距離を集計してみた。作業を直感的に行動する場合は移動距離に非常な差があること、および作業者の合理的位置は動線の集中度の大きい方によるべきことがわかる。

この結果にもとづき作業改善のよりよい方法を発見する余地が十分ある。